

私の居場所と私
—居場所、絆、夢—

グループ3、夏董（カドウ）

1. 紹介文

今年4月日本の留学で秋田に来ました。初めての出国は留学という形で正直に言って心が結構騒ぎました。なぜなら、外国に行けば、今まで自分が頑張ってきて作った自分なりの心地よい生活環境が突然変わることになるからです。今まで自分の居場所は大きな変化はあまりなかったのです。高校卒業して進学とともに故郷を離れて他所の上海に来た頃は私にとって生活環境がはじめて変わったことになったのです。日本に留学しに来たのは今まで生活環境が一番大きく変わったのです。そして、秋田も今の私の居場所になりました。

居場所とはいるところ、居所という意味が基本ですが、私にとってこの身だけではなく、精神的にも託することができる場所です。そういう居場所になるのはきっと欠かせない要素があるはずで、これからグループの皆と一緒に活動しながら、自分の居場所を作るには何か必要なものを見つけ出したいと思います。

2. 散歩に行ってみて

一回目の散歩は千秋公園に行きました。なぜ千秋公園に行ったかという、あそこは今の私の居場所としての秋田市の一番美しいと思う所の一つです。そして「家族と私」をテーマにする英里佳さんにとっても、「結婚と私」をテーマにするミヒョンさんにとっても、公園は家族の皆と一緒によく散歩しに行くところであるからです。みんなと弁当を食べた後、それぞれのテーマについて話し合いました。特に家族と友達を中心とすることをたくさん話しました、私以外にみんなの家族は兄弟3人ぐらいいるということすごく羨ましかったです。

二回目の散歩はガストに行きました。あそこに行ったのは主に「友達と私」をテーマにする秋山さんが昔地元の友達とよく行くところであったからです、そして、英里佳さんにとってもファミリレストランは家族とよく行くところでもあるからです。あそこでご飯を食べた後、秋山さんが地元の友達との話を聞きました、とても面白かったです。わたしも思わず昔地元の友達との思い出を思い出されました。

散歩を通して、皆のそれぞれのテーマについてたくさん話しましたが、私のテーマは少し内容が深くに見えるから、あまり話しませんでした。しかし、皆の話から地元とか、つまり家族や友達がいるところが自分の居場所であることがわかりました。

3. 話し合いの結果

今まで私が頑張ってきた居場所は地元、上海、秋田という三つのところですが、そして、今実際にいるのは秋田です。話し合いで今までどうやってこれらの居場所を作ったのかを話し合いました。

地元はもちろん自分が生まれたところ、家族もいるし、友達もたくさんいる、自分の第一の居場所とも言ってもいいです。

2008年の夏に夢を持って上海に来ました。大学で1年間ぐらい経ってからようやく自分の新たな生活環境に慣れました。しかし、その時まで自分の居場所とは言えないと思ったのです。なぜかという、生活が慣れたことはただひとりで何とか生きていけるということだけになったので、その時まで心細くて時時空しくて寂しいというような感じがあったのです。生活慣れてから大学でいろいろやり始めました。部活や学生会やクラス学習委員やバイトなどやるのが突然多く増えてきて猫の手貸すほど生活が忙しくなりました。時々疲れた感じがありますけど、忙しくなったらちゃんと自分の目標が見つかったのです。その時今までずっと迷っていた私は自分の人生の道を定めてそのまま目標や理想にまっすぐに走り続けていくことを決心しました。目標とか、理想とかと言っても短期の目標だけのもので、とりあえず卒業して仕事しながら、大学院への入学試験を準備するというのをまず目指してがんばることにしただけなのです。あまりに遠く未来のことばかり目を付けたら、迷いやすくなるということがわかったので、一步ずつ自分の目標を決めて進めていった方がいいと思っています。

秋田に来てから、身の回りのことすべて変わってしまって、来たばかりの時に本当はすべきことがいっぱいありましたけど、何を、どこからをすればいいのかさっぱり分らなかった。幸いに大学側がとても親切で大学の学生さんに案内してもらってくれました。二人の案内者の手伝いのおかげで、秋田で生活や勉強の準備は順調に済みました。しかし、最初の4か月ぐらいは本当に辛い時期でした。なぜなら、本当に隅々に寂しい感じがしたのです。短期留学生は学校の授業があまり多くなかったもので、毎日学校のほんの少し授業が終わったら、すぐ寮に帰って部屋に閉じ込んだのです。寮はあまりに静かすぎて世界が自分しかないような感じがしていました。その時一番楽しかったのは一週間一回ぐらいネットで家族との話し合いのことです。そういう状況2か月ぐらい続きました。時間の流れにつれて、学校でも寮でもいつも見かける人たちとだんだん親しくなってきました。みんな違う国の人で文化や言語の背景には違いがあったから、仲よくなれないと思いましたが。勇気を出して声をかけてみたら、皆は見た目と違ってそれぞれが個性がある人で熱情な人でした。私も友達をたくさん作れるように、努力を入れることと決心しました。あれから、身の回りの声をかけられる人がだんだん増えてきてその中に自分のことを友達とってくれる人も一人一人増えました。友達が作ってきて、皆と一緒に勉強しあったり、食事会や飲み会をやったり、一緒に楽しいイベントをやったりして楽しい生活ができました。その上、学校の授業も少しずつ増えてき、バイトもやり始めました。生活はどんどん忙しくなってきました。忙しくなって時々疲れましたけど、励ましてくれる仲間があるので、どんなに疲れても、頑張っていける力があります。今異国にいる私は何か月の努力を通して自分の新しい居場所を作りました。

地元は私の第一の居場所というのは家族との絆があるところであるからです。上海は私の居場所というのは私が夢を叶えていくところであるからです。秋田は私の居場所というのは友達との絆と夢をかなえるための修行するところであるからです。みんなとの話し合いでこれがわかりました。

4. 私の居場所と私

自分の居場所を作るには必要な要素には何があるかはここまでようやくわかりました。私にとっては居場所になるのは家族や仲間との絆があるところと夢をかなえるところの二つの要素が欠かせないです。人間にとって居場所というのは必ずしも一つしかないというわけではないです。私は今は三つの居場所を持っています。そして、これからもまた新しい居場所を作るかもしれません。いや、きっとまた作るはずだと言った方がいいと思います。なぜかという、まず、自分の夢はまだ叶えていない、それから、結婚して自分を中心とする家族もつくるからです。ですから、私にとって最後の居場所は多分夢も叶えて、妻とどこかの田舎でのんびりな生活を送るところだと思います。これからはやるべきことは今の居場所を大切しながら、新しい居場所に踏み出したいと思います。

5. 「社会」とは何か

人によって、それぞれの大切な社会は違いますが、同じなのは自分を中心とすること、つまり、自分の様々な要求が満足できることです。私の社会は私の居場所で、私の居場所では私が主人公です。その他友達との絆のことや夢を叶えるためのことなど全部私が望んでいるこの居場所という社会で欠かさなければいけないものです。ですから、社会とは自分を中心とする一定の空間で、そこには自分の様々な要求が満足できる場所だと思います。人の考えによってはその社会の大きさが違います、そして、必ずしも実際の空間ではなく、精神的な空間も自分の社会になれると思います。

6. クラスについての感想

このクラスの授業のやり方は今までと違って、文化背景が違っている人たちが活動しながら、それぞれのテーマのレポートを成せる授業です。他国の人と交流する間にお互いの文化の違うことと共通することがわかりました。それが分かったとたん、本当に勉強になった感じが有りました。それから、最初が凄く面倒とか、難しいと思うレポートはグループの皆の手伝いで少しずつ完成まで書いて行っただけです。完成した時、本当に嬉しかったです。やればできるという感じがありました。ですから、このクラスでは本当に楽しかったです、勉強になったのです。